

高校生 ICT Conference 2017

高校生ICT Conference 2017

高校生が考える心豊かな生活

～ ICT×（家族・学校・地域）～

最終報告会 開催報告書（案）

2017年12月11日（月）

主催

安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2017

目 次

1. 開催概要.....	●
2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催.....	●
3. 高校生 ICT Conference 2017 最終報告会 開催概要.....	●
4. 高校生 ICT Conference 2017 最終報告会 発表内容.....	●
5. 文部科学省 意見交換会	●
6. 内閣府内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 意見交換.....	●
7. 総務省 意見交換.....	●
8. 主担当.....	●

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2017</p> <p>テーマ：高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター
協賛：	グーグル合同会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE 株式会社、株式会社インテグラル、エースチャイルド株式会社、一般社団法人情報教育研究所、Twitter Japan 株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研
協力：	アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、学校法人東京電機大学
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>IT やインターネットは、その発明の理由は別としても、民間利用においては、それらの技術を用いることで、人々の生活や事業をより効率よく、便利に営めることを目的としています。情報技術に限らず、多くの発明品は同様の背景を持ちながらも、便利さゆえに、安易な利用や悪事への利用などにより、本来の目的にはそぐわない結果を及ぼすこともあります。今年度の高校生 ICT Conference では、私たちの生活を更により良くするために、どのように ICT を利活用すれば良いか、という視点でテーマを設定しました。当然ながら、有意義な利活用とは表裏一体で、負の側面についても配慮が必要であり、より心豊かな生活を実現するために ICT の利活</p>

	<p>用における「光と影」について、次世代を担う高校生が自ら考える機会とすることを目的とします。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2017 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域 開催	北海道（札幌）	2017年10月22日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2017年10月15日（日）11:00-17:00	とまちプラザ
	宮城	2017年10月21日（土）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2017年9月23日（土）10:00-17:00	石川県教育会館
	長野	2017年9月30日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2017年8月17日（木）11:00-17:00	新潟コンピュータ専門学校
	東京	2017年10月7日（土）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2017年9月10日（日）10:00-17:00	学校法人岩崎学園
	静岡	2017年9月23日（土）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	三重	2017年9月30日（土）10:00-15:00	三重県庁
	大阪	2017年9月24日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2017年10月1日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 学園前キャンパス
	高知	2017年8月14日（月）9:30-16:30	高知県教育センター分館
	山口	2017年9月24日（日）10:00-17:00	サビエル高等学校
	福岡	2017年8月26日（土）11:30-17:00	都久志会館
大分	2017年8月27日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ	
鹿児島	2017年8月26日（土）10:00-17:00	鹿児島大学	
東京サミット	2017年11月3日（金）13:00-17:00	東京電機大学千住キャンパス	
最終報告会	2017年12月11日（月）	関係各省庁	

3. 高校生 ICT Conference 2017 最終報告会 開催概要

日 時：	2017年12月11日(月) 10:00-17:30
10:00-11:00	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
15:30-16:30	内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換会
16:30-17:30	総務省にて高校生プレゼン、意見交換、政務官との意見交換
場 所：	〔文部科学省 生涯学習政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100-8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1 中央合同庁舎 4号館 〔総務省 総合通信基盤局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第2号館
テーマ	高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～
出席者：	〔最終報告者〕3名 【三重県】三重県立桑名北高等学校 2年 男子 【大阪府】関西学院千里国際高等部 3年 女子 【福岡県】福岡県立博多青松高等学校 2年 女子 〔引率〕3名 【三重県】三重県立桑名北高等学校 【大阪府】関西学院千里国際高等部 【福岡県】福岡県立博多青松高等学校 〔随行〕7名 安心ネットづくり促進協議会 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 他、関係事業者・団体 【文部科学省】 生涯学習政策局 局長 大臣官房審議官(生涯学習政策局担当) 生涯学習政策局 青少年教育課 生涯学習政策局 情報教育課 計●名 【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者 内閣官房、警察庁、総務省、法務省、文科省、経産省 内閣府

政策統括官（共生社会政策担当）
政策統括官（共生社会政策担当） 審議官
政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年環境整備担当）

計●名

【総務省】

総合通信基盤局長
同 電気通信事業部長
同 電気通信事業部 消費者行政第一課
情報通信国際戦略局 情報通信経済室
同 国際協力課
情報流通行政局 情報流通高度化推進室
関東総合通信局 電気通信事業課

計●名

4. 高校生 ICT Conference 2017 最終報告会 発表内容

全国 17ヶ所（札幌、帯広、宮城、石川、長野、新潟、東京、神奈川、静岡、三重、大阪、奈良、山口、高知、福岡、大分、鹿児島）でワークショップ形式の議論を実施し、それぞれ代表者 1 名を選出。福井からの招待参加を含め、合計 18 名による高校生 ICT Conference2017 東京サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 3 名が、文部科学省、内閣府（青少年インターネット環境の整備等に関する検討会）、総務省において、高校生 ICT Conference2017 で得られた成果を発表しました。

最終報告の内容は主に以下の通り。

【高校生による報告】

『高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～ 』最終報告

11月3日に行われたサミットにおいて、参加した生徒は3つのグループに分かれ、家族、学校、地域とICTの利活用について話し合った。その結果を報告する。

I. ICT×家族「ICTと家族の上手な付き合い方について」

（三重県立桑名北高等学校 2年 男子）

1. 共通の理解の確認

- ・私達の「心豊かな生活」とはどういうこと？

⇒人によって心豊かな生活についての認識が違う。様々な価値観がある。

2. 家族間で起こる ICT トラブル

- (1) SNS などを使い、言葉を送るだけでは気持ちや思いが伝わらない。

⇒お互いの意見が通じ合うということが豊かな生活に繋がる。

- (2) 家族間で SNS に対して求めるものが異なる。

⇒親はスマートフォンを遊び道具と見ており、
子供は勉強に必要な教材だと思っている。

- (3) スマートフォンは手軽な連絡方法であるため、必要のないことまで聞いたり、思い違いを生んでしまう。

3. 家族同士での ICT のより良い活用

- (1) 家族間のコミュニケーションは面と向かって言葉や表情で伝えることが大切。

(2) スマートフォンは補助的な道具であり、道具として適切に利活用することが、心豊かな生活につながる。

II. ICT×学校

（関西学院千里国際高等部 3年 女子）

2015年9月に国連総会で採択された、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」に謳われているように、誰もが心身共に健康である権利をもち、ICTの発達によって世界中でハイレベルな教育を受けることができるようになった。学校は、人が生きていくために必要な力を身につける場所である。生き方に様々な選択肢がある中で共通しているのは、心身ともに健康であるということ。役割の多い学校とICTをつなげることにより、心豊かな生活が実現すると考える。

1. 共通理解

「心豊かな生活」⇒各自価値観が違う⇒豊かな生活も個々に異なる。

「学校とは？」⇒SNSの普及によってリアルコミュニケーションが少なくなっているため、家庭以外

の人と現実世界で繋がれる唯一の場である。

2. 生徒と ICT

SNS は生徒と ICT をつなぐ一番の方法である。

Twitter や Instagram は、個人の趣味や興味をアップロードし、「いいね」をもらう軽いつながりである。こうしたアプリは一方的なコミュニケーションの要素であるが、LINE などではもう一歩深い、相互的なつながりができる。

SNS を通じていつも様々な人とつながりあうことで、人のぬくもりを感じる。他人に認められたいという欲求が生まれることで実生活がより心豊かな生活へと変わっていく。

SNS を用いてつながりを求めるのは、リアルなコミュニケーションが薄れているからである。

実際に会う以外の人とのつながりを求めるがゆえに他人に興味を持ち、自分の興味を認められなくなる。

3. リアルと ICT

このようなつながりが生まれることにより、ICT をより活用して心豊かな生活が実現できる。

4. 私達ができること

(1) 高校生と高齢者の相互の知識の共有と交換

デジタルネイティブな若者が高齢者に ICT を、高齢者が若者に日本人の経験や知恵を相互に教えあうイベントを開催する。

(2) 世界どこでも部屋

学校において生徒が中心となり、(1) で学んだ日本人特有の知恵や文化に関して、ICT を使って世界へ発信する。

III. ICT×地域「心豊かな生活とは」

(福岡県立博多青松高等学校 2年 女子)

IT よりも ICT という言葉を聞くようになった。コミュニケーションの部分がより重要になり、インターネット上だけでなく、直接会う Face to face の大切さが求められているからではないか。

平成 24 年度総務省情報通信白書には災害時の技術面の対応・金銭面の援助等について記載されているが、スマートフォン等、情報を得るための機器を持っていない人も多い。ICT を利用している人とそうでない人がつながるため、また ICT が無い状況でも助け合うため、白書にもある「きずな」が大切なのではないかと考えた。

(1) 災害に備えた救命訓練

公民館などで救命訓練を行う。災害対策になると共に、地域で Face to face のつながりが生まれる。ハザードマップの確認や災害地の方のビデオ通話をつなげるなど、高校生が主体に企画し実施することで地域に関心を持つきっかけになる。つまり、地域のきずなを深める事につながっていく。

(2) 災害時の活動

被災者に話を聞いたとき、「災害時に一番力になるのは、顔を見て挨拶をする、話す、笑い合うことだ」と教えられた。その行動は、大人や子供より、まず高校生が実行可能なことだと思う。ICT を活用してこの考え方を広げたい。ICT の発展は『豊かな生活』につながるが、これは『心豊かな生活』とは異なる。ICT を活用し、自分たちで考え、生活を豊かにしていこうとすることが、心豊かな生活なのではないか。この認識を高校生が持ち、ICT を広めていきたい。

身近な世代が先生として授業をするもの。

ICT の発展は豊かな生活に繋がりますが、「豊かな生活」で「心豊かな生活」ではない。

「心豊かな生活」とは人それぞれ異なるため、ICT で生活を豊かにするのではなく、ICT を活用し自分たちで考えて、生活を豊かにしていこうとすることが「心豊かな生活」では無いかと考えます。

5. 文部科学省 意見交換会

(文部科学省 以下文科省) 着眼点がすばらしい。現実社会を大切にしていることが重要だと思う。ネット依存による事件が起きている中、リアルな世界を充実させていくために ICT を使っていくという考え方に感動した。同世代へさらに広めていく方法について、どう考えているか聞かせてほしい。

(生徒 A) 我々高校生はデジタルネイティブと呼ばれるが、だからこそ、危険がわかると思う。ICT モデル授業を発展させていくことで、より理解できるのではないか。

(生徒 B) 今回の高校生 ICT Conference を通じて学んだことだが、学校では ICT に関する講演があり、授業でネットトラブルについて学び、知識もたくさんある。実際に高校生が意識して変えていかなくてはと思うためには、指導を受けるだけではなく、自分で考えることが大事だと思う。この意識を広めるためには、こうした高校生 ICT Conference のような場をもっと設けていくと良いと思う。

(生徒 C) ICT に関する講習を受ける機会があるが、聞いているだけで自ら考えることがない。危険についても他人事のように感じてしまうので、より良い活用の仕方、問題点などについて意識を持たせることが大切ではないか。

(文科省) 全国の仲間と議論をする場を持った皆さんが、身近な友達にどうやって広げていくか、ハードルが高いと感じるかもしれないが、それを打開するのはコミュニケーションの力が強いと思うので、自分たちで提案、実行できるよう頑張ってください。

(文科省) スマートフォンのやりとりだけでは細かいニュアンス、気持ちを伝えるのは難しいと思う。そこに注目しているのが素晴らしいと思った。補助的に活用することで家族のコミュニケーションがうまくいったことがあれば教えてほしい。

(生徒 C) 家族とはメール等ではなく、できるだけ顔を合わせて話している。

(生徒 A) 父が倒れたとき、電話がなかったら気付くことができなかったのでコミュニケーションツールの重要性がわかり、また、そのおかげで安心できた。ICT をフル活用した瞬間だった。

(生徒 B) 父が単身赴任なので、コミュニケーションが必要だが物理的に難しい。SNS を使えばすぐつながることができる。一番大切なのは顔を見て話すことだが、次はメールよりも電話で話すことがいいと思い、そのように行動している。

(文科省) 東日本大震災のときも、普段から地域が顔を合わせているところは避難所が迅速に立ち上がり、対応できたと聞いている。いざというときには、高齢者に教えてあげる必要があると思うので、対応してほしい。今回、映像(動画)を使ったコミュニケーションに関しては、話は出たか。

(生徒 B) 消防とつながって救命手順を動画でみながら学ぶのは必要だ、という話をした。また、被災地とテレビ通話等につながって Face to face で経験を聞くことは一番心に響くと思う。細かい質問もテレビ通話等を活用するのが良いと思う。

(生徒 A) ICT を使って世界とつながるのはとても素晴らしいことだと思うので活用していきたい。

(生徒 C) 問題点として、悪ふざけ、モノを粗末にしたり誰かを不愉快にするような動画はあげないほうがいい。

(文科省) 自分が生徒として学んだ時期の情報モラル授業は、やってはいけないことを教えられるばかりだった。今の高校生は自分たちで考え、問題点を見つけて当事者意識をもって取り組んでいく姿勢が素晴らしいと思った。高校生としての立場で、下の学年の子どもたちに伝えたいことがあれば聞かせてほしい。

(生徒 A) スマートフォン禁止の学校が多いが、自分が学んでいる学校はそうした規則は無い。他校の生徒から、「ダメといわれたら反発する気持ちが生まれるので、自分たちで納得できるルール作りをしよう」という考えが生まれた」という話を聞き、なるほどと思った。責任付きの自由を持つことで、問題行動は起こらないと思う。

(生徒 B) 教えるというよりは、一緒に考えることが大切ではないか。家でスマートフォンの利用時間を決めていたり、高校生になるまで持たせないという家庭もある。大人はトラブルを回避するために、使用禁止にしたり制限を加えたりすると思うが、子供は納得できず、反発したりする。高校生は自分で考えることが重要だが、下の世代は知識・経験も少ないので一緒に考えてあげることが大切だと思う。

(生徒 C) 低年齢化が進んでいて、幼稚園児や小学生はデジタル画面に慣れておりアナログ時計の見方がわからない状況があると聞いた。やはり、小さいころはスマートフォンを持たせない対策が必要ではないか。

(文科省) 座間市の事件はどのように受け止めたか。Twitter で知り合った人と実際に会うことをどう思うか。

(生徒 A) 違和感がある。Twitter 上はいくらでも嘘をつけるから、相手を優しい人だと勘違いしやすい。会ったことが無い人には近づかないよう親がちゃんと教えるべき。

(生徒 B) Twitter で知らない人と会うことに違和感がない人もいる。心が不安定な状態の友人が近くにいるが、こうなってもおかしくないと思った。文字のやりとりと、直接会うという行為のあいだが一気に抜けていると感じている。例えば電話などがあいだにあっている。そこが抜けているのが問題だと思うし、それがおかしいと思わない人がいることが怖いと感じた。そのような感覚のままだと自分も同じ目に合うかもしれないという意識を持つことが大切だと感じた。

(生徒 C) Twitter で裏アカウントを持っている人がいる。首吊り師みたいな人に会ってしまうと、周りにも危険性が伴う。アカウントはひとつでいいのではないか。

(文科省) 心の闇を抱えないことが一番大切なのかと思う。それから、「インスタ映え」という言葉が流行語になった。リアルが充実していることをアピールして、他人に認められないと不安に思うという人たちの集まりに見えるのだが、どのように感じていますか。

(生徒 A) 楽しんでやっていたら、と気楽に使っているのだと思う。

(生徒 B) インスタ映えを求める理由は、周りからいいねと思われたいということから来ていると思う。SNS の評価だけを気にしないためには、現実世界で評価されるようになればいい。その割合が増えてくると、ほどよい評価を求めるようになるのではないかな。

(生徒 C) Instagram でアップする写真を撮るためだけに食べ物を求め、実際に食べないことがあると聞くので、現実の生活で認められることが何より大切だと思う。

(文科省) 最後に一人一言ずつお願いします。

(生徒 C) 自分で触れていないと、ICT のことを考える機会がなかった。貴重な場に参加させていただき、感謝しています。

(生徒 A) このような場で発表することができ、とても楽しかった。高校生 ICT Conference に参加したのは、いろんな経験を持たないと夢を実現できないと思ったから。今後も ICT について考えていきたい。

(生徒 B) 考えることの大切さを身をもって知った。高校生が企画し運営して、大人がカンファレンスに参加するといった機会があってもいいのではないかな。そうした場があれば自分も関わりたい。

(文科省) 大変充実した話をいただき、ありがとうございました。先だって福島での災害時にどんなことがあったか聞く機会があった。遠方の体育館で避難生活において、お世話になっている御礼の一環として皆で体育館周辺の草むしりを実施したとのこと。その後は体育館の雰囲気さがらっと変わり、挨拶を交わし、お互いのことを考えるようになったということだった。ICT の活用が進んでも、リアルなコミュニケーションを大切にするという意識を持ち、それぞれの学習、生活の中でより前進していただきたいと思います。本当にありがとうございました。

6. 内閣府内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 意見交換

(内閣府検討会議長) 高校生から、本会のメンバーにどんなことを伝えたいのか、どんな意見がほしいのかなどがあれば、もう一言聞かせてください。

(生徒 A) 高校生は何ができるのかについて抽象的な議論をした。実現性などについてアドバイスいただければ嬉しい。

(内閣府検討会構成員) ICT を使った心豊かな生活の実現という、保護者には (ICT が) 苦手な世代の人もある。豊かになるなら利用したいが、考えることは苦手という場合も多い。保護者にどんなことをしてほしいか。あるいは、自分たちが保護者にこんなことができる、と教えたことはあるか。

(生徒 C) 家族は、SNS ではなく電話や面と向かって感情を伝え合うほうが相手の気持ちがわかり、気を遣うことができるのでそのほうがいい。

(生徒 A) 保護者にはあまり言われたくない。テスト前に携帯没収という話も聞くので、子どもが ICT を使い、どんなことをしているかきちんと説明すべき。自分の家族は全て認めてくれている。学校も自由だからこそ ICT を活用して充実した勉強ができており、親とのトラブルには発展しない。自分たちが保護者にできることはたくさんある。子どものほうが ICT のことをよく知っていることを前提として教えてあげることで、親孝行できるのではないか。

(生徒 B) 保護者というと、スマートフォン利用の制限という印象が強い。トラブルを防止するために駄目というだけだと子どもは納得できず、便利な面がたくさんあるので使いたいと思う。保護者は防止のためにも、どんなトラブルが想定されるのか一緒に考えてほしい。危険性を自分で考えて結論を出さないと、変わっていかないと思う。

(内閣府検討会構成員) これからの未来を作っていく世代を大変頼もしく思う。質問だが、

- ①皆さんが初めてスマートフォンを手にしたのはいつか？
- ②そのときの保護者と約束事はどんなことだったか？
- ③はじめたときは依存のようにならなかったか？
- ④学校での情報モラル教育で、もっとこうしたほうがいいのか？

(検討会構成員) 同様に質問だが、⑤困った状況になった友達が周りにいたら、どんな風に助け合うか？

(生徒 C)

- ①中学 1 年生のとき。
- ②一日 10 分というルールがあった。
- ③中学 3 年生のころからオンラインゲームにはまってしまい、一日 8 時間続けてしまったときはまずいと思った。
- ④情報モラル教育は受けていないが、講習で伝えるだけではなく、聞いた人が考えるような内容にしたらどうか。

⑤特にない。

(生徒 A)

①中学 3 年生のとき。

②約束事はなかった。

③いま、依存しているのかも気付いた。

④学校でディベートを多めにやっているが、ICT についての問題も取り上げてほしい。考えるだけでは駄目で、行動もできるようにこつこつやろうと思う。

⑤学校に合わない友人が自分に頼ってくれており、やりとりは SNS のみである。これがあつたから友人は学校に来ることができるようになった。ICT の重要性を感じた。

(生徒 B)

①小学 6 年の春休みに買ってもらった。

②そのときのルールは特に無かった。

③小学・中学と不登校で引きこもりだった。そのときは SNS 上の関係に依存していた。

④今まで受けた授業はネットトラブル事例の紹介が主であった。知識はたくさんあるが、自分ごととは思えなかった。今回、高校生 ICT Conference に参加して、自分の身に置き換えて考えることができた。考えるということがとても大切。話し合いはすぐにはできないので、発表や実行など、目標を持たせて話し合わせるとしっかりできるのではないか。

⑤不登校の友人と SNS でやりとりするが、文字だけのやりとりは誤解が生まれる。SNS よりも電話、電話よりは会う、というサポートをしている。

(内閣府検討会議長) 高校生が ICT とどう付き合っているのか、リアルな声を聞かせていただいた。ICT = 危険という話ではなく、活用していく中でリアルなやり取りも必要で、バランスを取って付き合っているということかと思う。教育については、知識を得るという点では非常に有効だけれども、もっと「考える・行動につながる」教育が必要ということだった。これは文科省でも「考え、議論する道徳」への転換ということで小学校・中学校で変わっていき、教育課程全体が「考える、議論する、主体的学び」という方向にあるので、改善が期待されるのではないかと思う。私たちもそれぞれの立場で、皆さんの話を踏まえて取り組んでいかなければいけない。本日はありがとうございました。

(生徒) ありがとうございました。

7. 総務省 意見交換

(総務省) 家族の関係について聞きたい。親は遊び道具としてしか思っていない、あるいは、つながったら過干渉になるなどの発表があった。ツールの良い面、悪い面があると思うが、皆さんの家族・周囲では、バランスが取れているか。

(生徒 A) 自分の家族はバランスがとれている。電話が好きなので直接話す。バランスが取れていない家庭は Face to face が大事になってくると思う。

(生徒 B) 自分の家庭もバランスがとれていると思う。夜少し遅くなるとたくさん連絡がくるが、あまり過干渉と思わない。スマートフォンの有無に関わらず、親が子を心配することは変わらない。

(生徒 C) ふだん親と面と向かって話しているので非常にバランスがとれており、家族にあまり連絡はしない。

(総務省) 熟議では様々な意見が出たと思う。積極的にコミュニケーションをとろう、ということは親から言うほうがいいのか、子どもからがいいか。

(生徒 C) 子どもからがいいと思う。

(総務省) 総務省では、ICT を活用して女性の活躍の場を増やすことを考えている。どのような取り組みがよいか、考えることはあるか。

(生徒 A) 女性は男性より力仕事で劣る点があるかもしれないが、ICT は関係ないので、女性がより使いこなせるようになれば仕事の幅が広がると思う。

(総務省) あなたのお母さんはパソコンや携帯など、ICT を使いこなしていると思うか。

(生徒 B) 利便性に頼りすぎるわけでもなく、良い点を活かし、ほど良く使えていると思う。

(総務省) フェイクニュースの問題等もあるが、ICT を使う上で気を付けていることは。

(生徒 A) 私は学校でクリティカルリテラシーを学んでいる。ニュースをうのみにしてはいけないと教えられており、理解しているつもりではあるが、気を付けたい。

(生徒 B) 一つのことに対してたくさんの記事がある。親も含め様々な意見を聞き、決めてかからないようにしている。自分がどう思うかについては輪郭を明確にせず、あえてぼんやりといろいろな情報を見るように心がけている。

(生徒 C) 複数の情報をみて、中立的な立場に立つようにしている。

(総務省) 素晴らしい発表ありがとうございました。皆さんの問題意識、堂々としたプレゼン能力の高

さに関心した。ICT をいかにうまく使って心豊かでより良い生活を作っていくか、総務省でもさまざまに考え、啓発活動を行っている。デジタルネイティブの皆さんが自らの頭でどうやって利用していくか考えていくことは、大変重要だと考える。この高校生 ICT Conference の取り組みはとても意義深い。学校に戻ってからも、この経験・知見を友達やご家族に伝えていっていただきたい。最後に、実行委員長、関係各位の皆さまのご尽力により、大変中身の濃い議論になったのではないかと思う。これからはどうぞ宜しくお願いします。

7. 主担当

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田 謙三	概要説明
安心ネットづくり促進協議会	高橋、高木 源、藤井	事務局、撮影、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水	庶務
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	記録

(敬称略)

以上